

スモン体験

畠中 理文

奈良市のスモン患者畠中（ハタナカ）と申します。

このたび、京都スモンの会の高町様から名古屋で開催されるので、出席頂けないかとの話がありました。

しかし、足がどうもうまく動かないのです。

名古屋へ行けないのは、悔しいです。残念です。

そこで、スモン患者の一人として発表させて下さい。

私は、現在、満73才、スモン患者です。

私のスモン発症は、昭和42年7月、高校1年生で16才でした。

スモン健康管理手帳にスモン鑑定結果が昭和54年7月と記入されています。

今日まで57年間の長い月日が過ぎてしまいました。振り返りますと、当時ネクロゼ症候群で緊急入院。16才で人生初の入院生活を送りました。

「病状が思わしくない」と主治医の先生が親に話されました。父は葬儀の準備をしてたらしい、、、です。その話は退院してから兄から聞きました。

入院して1年たった頃、腎臓病も安定した頃でした。退院ま近に激しい腹痛、そして両足の麻痺（まひ）が生じたのです。

「看護師さんが隠れて何か食べたんか？」と“きつく”言われ、看護師の目が届く詰所前の個室に移動されました。

そして、冷たい足、氷のような足をお湯につける毎日。

何とか歩ける体になり、二年間の入院生活を終えました。

退院後は、高校生活が待っていました。

はっきり言って“つらい気持”“つらい体”では学校へは行きたくなかったです。

「親は高校だけは出とけ」ときつく言われ勉強にも体もついていけず“ふらふら”でした。

思い出すだけでもイヤですけど、何とか留年しましたが、ガンバッテ卒業することができました。

そして、私が20才を過ぎた頃、私のような患者が各地で集団発生することから伝染病が疑われ、患者は差別され、社会的に“つらい”思いをする方が多かったようです。

その後、キノホルムの整腸剤が原因となるわけですが、私は偏見を恐れ就職、結婚の際も“スモン”の事は話せなかったです。友人、知人、親せきにも話せなかったです。

◎スモン患者の私は裁判所へ出向く事となります。原告の自分はスモン患者の証拠として「キノホルムを服用した事実を証明するもの」と「日記帳」を提出いたしました。

入院中、1日もかかさず、日記を書いておりました。しかし、日記帳に空らん部分がありました。書ける体ではなかったのです。

激痛、そして足が動かなかった時期だったのです。

その日記が裁判所で活躍するとは思ってもよらなかったです。

裁判所は、遠い場所にあると思っておりました。裁判所に踏み入れる事、いろいろ大変でした。

●人生は思うどおりにならないものだ、とよく言われますが、ほんとうに、そのとおりになりました。

スモン患者になって人の暖かさ、やさしさを知りました。人のお世話にもなりました。

「人は人によって救われる事」を知ったのです。

◎私は強い人間ではありません。

“なげやり”にもなり、つらい事が多かったです。

ふり返ると、人に教えたり、役に立った事は一つもなかった、だめな人間です。

◎私は、最後に何が出来るだろうと、、、

生きている限りスモンを風化させてはならない事が、私の役目だと気づきました。

そして、その強い思いが湧いてきたのです。

「移り行く日々」と題し、スモンを風化させないために、令和2年に自費出版させていただきました。

文章で、形が残すのが一番良い

スモンのような薬害を二度と起こさないでほしい強い思いからです。

○時代の変化、世の中移り変わりが激しい中、スモン患者は減少していきます。

スモンが風化していく怖さがあったからです。

●ツアーアウトからの人生、耐えて耐えて生きたい。

残りの人生、生きているだけで丸もうけ。私の役目は少しでも生きる事です。

“スモン患者は生きております”

“スモン患者は終わっておりません”

いつも今日が最後の日だと思い、生きております。

“とりとめない”話になって申しわけありませんでした。

これで終わります。

最後までありがとうございました。

追伸

最後に「命のろうそく～薬という薬害～」 Youtube で聞いて下されば嬉しいです（作詞畠中理文（ハタナカ リフミ）です。）。

CDやカセットテープでの音源提供も行っています。

希望者は下記メールアドレスにお問い合わせ下さい。

宛名 : 花形 晴雄

メールアドレス : smon_tokyok@outlook.jp

スモン体験

畠中理文

畠中さん

スモン罹患前



畠中さん

入院中



花見 坂口 保 会長(右)と

平成21年4月4日

以下は著書「移り行く日々」9ページより

畠中さんの強い意志と人生の回顧

(省略)

この著者は、薬害を風化させてはいけないという、畠中さんの強い意志と畠中さんの人生を回顧したものである。

奈良県スモン病患者を支援する会 会長

奈良県県議会議員 坂口 保



スモン患者(前川エイ様) お見舞い

平成21年4月19日

著書「移り行く日々」15ページより



スモン患者(森クニ様) お見舞い

平成21年5月2日

スモン患者は友である

その友を見舞う私が来るこ
とを楽しみにしている

私はパワーをもらっている

著書「移り行く日々」16ページより



はじめての花見会(1)

平成22年4月

畠中さんは中央

これからずっと続けようと言っていたが、

その後、5月に霊山寺のバラ園に行った

著書「移り行く日々」17ページより



はじめての花見会(2)

平成22年4月

畠中さんは後列右端

著書「移り行く日々」17ページより



著書「移り行く日々」表紙

同書 まえがき より

文章の形で残すこと事が私の役目だと思っております。

一行でも、二行でも目を通して下されば嬉しいです。

スモンを風化させないために今生きています。

畠中理史



著者近影 右

スモンを風化させないために
移り行く日々

戻らない人生の歯車、激痛
人は、人によって救われる

命のろくそく～薬という薬害～

うた：あなむ

作詞/畠中理文

作曲/今牧亜奈睦・今牧真道